

## 台風第19号 義援金の状況

台風直後から現在まで、市内外の多くの皆さんから義援金が寄せられています。温かいご支援を誠にありがとうございます。

(1月1日現在)

■件数：134件 ■金額：10,439,904円



## まちのできごと

11月

### 応急仮設住宅移動式木造住宅「ムービングハウス」を設置

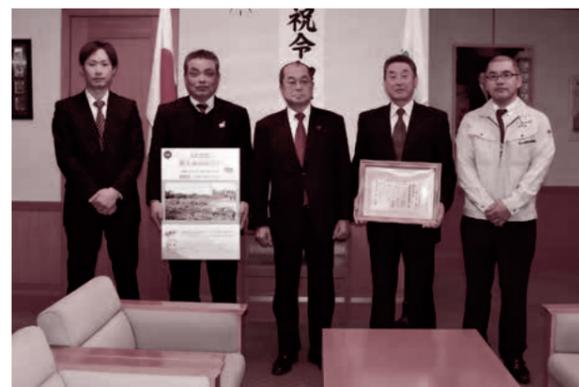
令和元年台風第19号による災害で自宅が被災した市民の皆さんに向け、大宮東部地区コミュニティセンター駐車場に応急仮設住宅として移動式木造住宅を設置しました。これは、従来のプレハブ型仮設住宅とは異なり、工場で組み立てたものをトラックで運ぶため短期間で設置できるのが特徴で、ムービングハウスと呼ばれています。本県内では初めての設置となりました。室内は、台所やお風呂、トイレ、ベッド、エアコン、電気オイルパネルヒーターが備え付けられ、結露防止に3重の窓ガラスとなっています。応急仮設住宅には最長で2年間居住が可能です、現在9世帯18人が入居しています。



▲正面から見たムービングハウス

### 12/3 ディスカバー農山漁村の宝に選定

総理大臣官邸で第6回「ディスカバー農山漁村の宝」選定証授与式が行われ、JA 常陸奥久慈支部会が選定証を授与されました。「ディスカバー農山漁村の宝」とは、強い農林水産業や美しい活力のある農山漁村の実現の為、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信するもので、支部会の活動が高く評価されました。今後も、県北地域の代表として支部会の更なる活躍が期待されます。



▲おめでとうございます

### 12月 『水戸義公全集』が寄贈されました

公益財団法人徳川ミュージアム理事長で水戸徳川家15代ご当主の徳川斉正様より、貴重な書籍をご寄贈いただきました。水戸藩2代藩主徳川光圀（諡号義公）が詠んだ漢詩や和歌、折々に記した随筆や日記・書簡等をまとめ、1970年に出版された『水戸義公全集』全三巻です。多くの市民の皆さんが利用できるようにとご配慮から図書館の蔵書となり、どなたでも閲覧することができます。黄門様の著作にぜひ触れてみてください。



▲ぜひご覧ください

12/6

### 辻徹さんが文化庁長官賞を受賞

上檜沢地域に工房を構える木漆工芸家の辻徹さんが、漆の生産・精製に携わるとともに後進の育成にも努め、選定保存技術「日本産漆生産・精製」の保存・伝承に寄与し、文化財保護に多大な貢献をされていることが称えられ、令和元年文化庁長官表彰を受賞されました。

辻さんは、小学生の頃から自然素材でのモノ作りに興味があり、東京芸術大学および同大学院で本格的に漆芸を学んだ後、美和工芸ふれあいセンターの木工指導員となりました。大学時代から本市周辺が良質な漆の生産地と知っていたことから、必然的に漆との関わりを持ち始め、生産地ならではの環境を生かした漆掻きや漆の木への育成にも携わるようになったそうです。現在は、漆の育成生産精製作業から、作品となる原木の仕入れ、漆塗りの仕上げまで一貫した制作を行っています。

また、北海道出身の辻さんは、市内での暮らしについて「大変住みやすく物価も安い。すぐに海の幸、山の幸が手に入る。そして東京にも近い。都会

のように便利ではない生活のなか、その不便さを受け入れることで、制作の時には今日はこの仕事に取り組むと決めて、しっかりと腰を据えて集中することができる」と話していました。今後は、自身の活動とおして漆や漆器の良さを知ってもらうだけでなく、より多くの人に日常の食器などとして使ってもらうことが目標だそうです。



▲漆の木の畑を背景に辻徹さん

12/18.25

### 市内企業と常陽銀行が寄贈

市内にある2企業と常陽銀行が小瀬高校と図書情報館に寄贈しました。

富岡地区にある株式会社ナカミチは、小瀬高校生がさらに活躍して全国に小瀬高校の名を広めて欲しいとの気持ちを込めてデジタルサイネージ（電子掲示板）を寄贈。生徒会長の小野瀬陽香さんは「デジタルサイネージで生徒の活動の様子を映し出すなどして、たくさんの人に小瀬高校の良さを伝えたい」

とお礼を述べました。

石沢地区にある有限会社エーアンドアイは、子育て支援に貢献したいとの思いから、図書情報館に丸テーブル1台と子供用椅子3脚を寄贈しました。これらは、図書情報館内の児童コーナーに設置されています。かわいらしい机と椅子で、お子さんと一緒に絵本や紙芝居などお話の世界を楽しんではいかがでしょうか。



▲左から常井安文校長、北島則之支店長、小野瀬陽香さん、中道弘孝・まり子夫妻



▲左から北島則之支店長、萩谷公康さん、茅根正憲教育長

11/6.13.20 市民大学講座

令和元年度前期市民大学講座を市文化センターで開催しました。テーマは「私たちの消費の先にあるもの—ファッションから見る持続可能な生産と消費—」と題して、茨城大学人文社会科学部の長田華子准教授をお迎えし、ファストファッションや消費活動、バンラデシュや日本国内の縫製工場の現状、ジェンダー視点から考える持続可能な生産と消費などについて講義が行われました。

受講者からは「講座を受け、安い衣料品の背景を知り、消費についてこれから考えていきたいと思った」などの感想がありました。



▲熱心に受講していました

12/1 行政相談のPR活動

常陸大宮市行政相談委員が、ショッピングセンターピサーロで行政相談のPR活動を行いました。行政相談についてのチラシ配布や、市民の困りごとに耳を傾けるなど、熱心に活動を行いました。

行政相談とは、日々の生活の中での困りごとを、行政相談委員が身近な相談相手としてお聞きするものです。道路や側溝の補修などのご相談はもちろん、どこに相談していいかわからないという方もお気軽にご相談ください。



▲お気軽に行政相談委員へご相談ください

12/1 きらきらステーション点灯

今年も、「きらきらステーション～サンタの里からプレゼント～」点灯式が開催されました。

JR水郡線山方宿駅から神奉地児童公園までをLEDライトで飾り、夕暮れの中でのイルミネーション点灯時には、幻想的な光に包まれました。オープニングセレモニー後に行われたミニライブでは、山方保育所、野上保育園など多くの出演者が会場を盛り上げました。来場した子供たちには、サンタクロースからプレゼントが配られ、笑顔と喜びが溢れていました。イルミネーションは、2月29日まで点灯していますので、ぜひご覧ください。



▲かわいいサンタさんたち！

12/7 御前山サイクリングフェスティバル

御前山ダムを活用した新たな観光資源としてサイクリングに注目し、御前山ダム周辺で御前山サイクリングフェスティバル（主催：御前山サイクリングフェスティバル実行委員会）が開催されました。ソロやチームなど99人のエントリーがあり、御前山ダムを周回するコース（6.1km）をサイクリストたちは思い思いのペースで走りました。また、チェックポイントとなったダム駐車場では、御前山ダム環境センターの皆さんによるとん汁の無料提供や地元グルメなどをふるまい、参加者はサイクリングやグルメを楽しんでいました。



▲よーい！スタート！

11/30-12/1 常陸秋そばフェア in 道の駅常陸大宮

常陸秋そばフェア in 道の駅常陸大宮のイベントが2日間に渡って開催されました。このイベントは、茨城県のブランド品種である「常陸秋そば」のPRを目的として行われ、今年度で4回目を迎えました。

当日は、都内有名そば店3店が出店し、そばの実演販売や、店主によるステージでのそば打ち実演が行われました。また、地元そばの会も4団体が出店し、温かいけんちゃんそば等の販売を行いました。来場者はいくつかのお店を回り、そばの食べ比べをしていました。



▲美味しいお蕎麦がズラリ

2日目には、常陸大宮大使でもある「テツ and トモ」が出演し、台風被害を受けた本市を元気づけようと、楽しいステージでイベントを盛り上げてくれました。ステージ終了後は、写真撮影にも気軽に応じ、来場者の多くと一緒に写真を撮ろうと長い行列を作っていました。

また、12月2日～15日にはレストラン常陸亭で、そばの期間限定メニューを提供しました。地元産の食材をふんだんに使った限定メニューを求め、レストランは毎日多くの来場者でにぎわっていました。



▲テツ and トモのステージ

12/3.10 季節にそった過ごし方 陰陽ヨガと薬膳教室（冬編）

【陰陽ヨガ】

3回目の開催となる冬編は、沢山の方にご参加いただきました。健康のために運動したいけれど、身体を動かす習慣がなかったり、方法が分からない人もいるかもしれません。この講座では、日々の生活に取り入れやすい簡単なヨガを紹介しています。冬は特に寒さ対策が必要な季節です。足先から丁寧に動かし、血液の巡りを良くしていきました。ヨガ終了後には身体がポカポカになり、効果を実感して頂けたようです。



▲体がすっきり！

【薬膳教室】

冬におすすめしたい食材や心がけたい過ごし方があります。冬に弱りやすい腎の機能を高めてくれる食材を使って、「黒豆生姜じゃこごはん」「海老蒺藜水餃子」「リンゴのソテーシナモン風味」を作りました。どの食材も身近で簡単に手に入るものばかりです。皆さんからの質問、アイデアもたくさん出て、充実した薬膳教室となりました。

春編の募集は1月27日発行のお知らせ版に掲載しますので、ぜひご参加ください。



▲美味しそう！

12/7

## 常陸大宮市のお宝発見ツアー2019

常陸大宮市の第4回お宝発見ツアー2019に、市内の小学4年生から6年生19人が参加しました。

今回は、森と地域の調和を考える会と美和木材協同組合の協力のもと、美和地域で体験活動を行いました。

午前は、樹齢30年のヒノキの間伐に挑戦しました。木の根元に「受け口」、「追い口」という2つの切り込みを入れることで、木を狙った方向に倒すことを学びました。実際にのこぎりで切れ込みをつくったら、みんなで力を合わせてロープを引っ張り大きな木を倒すことができました。のこぎりで切る作業は大変でしたが、木が倒れたときには児童たちから大きな歓声が上がりました。



▲真剣に作業しました

午後は、高部宿の町並み散策を行いました。有形文化財になっている間宮家住宅、偕楽園の好文亭を模して作られた岡山家の喜雨亭、そして隣接する庭園「養浩園」など、歴史ある建物をゆっくり見ることができました。児童からは、「こんなにすごいものがあることを初めて知った」「今度は家族と見に来たい」との感想がありました。

今回の貴重な体験によって、山林についての理解を深め、歴史ある故郷の素晴らしさを学ぶことができました。

### 子どもふれあい隊の声



茨城大学2年 海老原 晴輝

今回の体験で僕も多くを学びました。間伐の重要さやその作業の大変さを子供たちと一緒に実感し、美和地域の素敵などところをたくさん知ることができました。常陸大宮市の「お宝」をいっぱい発見できました！

## 12/15 アップライトピアノが寄贈されました

「みんなのピアノを贈る会」(高村惣一会長)から、道の駅常陸大宮〜かわプラザ〜で行われる各種イベント等でのにぎわいの創出に役立ててほしいと、アップライトピアノが市へ寄贈されました。会では、使われなくなったピアノの有効活用の呼びかけ、施設への贈呈、ボランティア演奏などを行っています。

寄贈にあたって、みんなのピアノを贈る会の皆さんによる演奏会が行われ、美しい音色と歌声が披露されました。



▲素晴らしい演奏と歌声でした

## 12/15 国際交流フェスティバル

第10回国際交流フェスティバル～出会い・ふれあい・10周年～(主催：市国際交流協会)が多くの来場者のもと盛会に開催されました。ステージ発表は、海外出身者の楽器演奏や舞踊、子供達による太鼓演奏や空手など盛りだくさんの内容でした。また、展示ブースでは過去のフェスティバルの写真などが展示されました。記念すべき第10回目も海外出身者と市民の交流を深める素晴らしいフェスティバルになりました。



▲全員で記念撮影